

# 幡多の太陽

令和元年12月23日 第16号

## 高知県実践的防災教育推進事業研究発表会

たくさんの方々のご参会ありがとうございました

12日の午前中から、研究発表会の講演の講師である慶應義塾大学の**大木聖子先生**と大学生11名が本校にやってきました。そして、2時間目には、体育館において全校児童と一緒に、「ダンゴムシ」や「さる」「あらいぐま」のポーズをしたり、「さるさるサンバ」のダンスバトルを小学生対大学生でしました。ダンス自体は大学生が上手でしたが、ダンゴムシなどのポーズの完成度やかわいさで小学生が勝利しました。そして、縦割班対抗で「防災リレー」をしました。大学生が言った災害から身を守るポーズをして(例えば、地震と言えばダンゴムシのポーズをする)、時間内に何人できたかを競うリレーでした。楽しく、大学生と交流しながら身を守るためのポーズの復習をしました。

3時間目は、5・6年教室で46億年の地球の歴史に関するお話をいただきました。実は、5・6年生が使っている道徳の教科書の中に「地球の時間、ヒトの時間」というのがあり、そこに大木聖子先生の文章が載っています。児童はすでに学習済みだったのですが、大木先生にこの文章を書いた思いを語ってもらいました。筆者の直接の言葉が聞ける貴重な時間となりました。

午後からは、研究発表会が始まり、他校の先生方や地域の皆さんが参会してくださいました。3・4年生は「自分だったらどうする」5・6年生は「だからもしもに備えよう」の公開



かわいくさるさるサンバが踊れました。



大学生にOKをもらおうと一生懸命です。



授業を行いました。

全体会では、「幡陽っ子 防災ソング」を皆さんの前で披露しました。その時の写真と発表会の様子が高知新聞に載りました。



書かれている記事が読み取りにくいと思いますので、部分的に取り出してみます。

『保護者や地域住民ら約50人を前に幡陽っ子防災ソングを発表。「自分の命は自分で守ろう」「海のそばからすぐ逃げよう」と力強い歌声で呼びかけた。』

『大木さんは、講演で、児童と祖母が2人きりで家にいる時に徐々に雨や風が強くなっていく様子をイラストで紹介。会場の避難所スペースに移動してもらった形で、一人一人にどの段階で逃げるのかを考えさせた。大木さんは、「(行政の)警戒レベルは参考にして自分で判断しないといけない」と強調した。』

発表会は終わりましたが、防災教育が終わったわけではありません。今後とも、家庭、地域と共に取り組んでいきたいと思ひます。



大学生による啓発劇! ソナエンジャーの登場に子どもたちは大盛り上がりでした。

### 杉本なぎさ先生

#### 着任

1・2年担任の深原有恵先生が手術を要する病気のため、12月4日より休んでいます。深原先生の代わりとして、杉本なぎさ先生が1・2年担任をしてくれることになりました。子どもたちも安心して学校生活を送っています。良かったです。安心して深原先生も治療に専念できると思ひます。

